

## 元気ですか？！元気があれば何でもできる。

### 1. 教育を考える一言

プロレスラーアントニオ猪木の有名な言葉であり、教師を目指すきっかけになった恩師が良く使っていたこの言葉を【教師という仕事について考える一言】として選びました。プロレスにも、アントニオ猪木にも興味がなかった私が、この言葉を意識するようになったのは高校時代です。高校1年生の時のクラス担任であり数学教師Ⅰ先生は、おはよう等の挨拶と共に問う言葉がありました。それが「元気ですか？」という問いです。この言葉をほぼ毎日言われ続ける中で、言葉が日常化していきました。日常に入り込む言葉の持つ力とは何なのか、という視点から考えていきたいと思います。

### 2. 背景

『言葉の力』には「言葉とは、口から出てしまえば、もう力をもってしまう、そのようなものである。」とあります。さらに同著には、「言葉が文として、励ましや勇気づけであり、相手の心のありように働きかけている作用である」とあります。つまり人の意識に訴えかける、何かが変わる【きっかけ】のようなものを与えてくれるものではないでしょうか。心が元気で体がだるいというのは、疲れが溜まっているだけなのかもしれません。ただ、体は元気でだけ心は疲れているというとき、どのようにして元気になることができるでしょうか。プラス思考を与えてくれる言葉は心に働きかける一つのツールだと思います。私は教師の役割が、学校に来た時の生活の楽しさや向上心を掻き立てることだとしたら、“勇気づけ”（一歩踏み出す機会を与える）が教育に必要なのではないかと思います。プラス思考を生む言葉に「元気ですか？！元気があれば何でもできる。」は含まれていると思うのです。アントニオ猪木は「元気を出せば、問題は問題で無くなる」と述べています。彼自身が歩んできた波乱万丈な人生を見ていくと、「プラス思考が問題解決をいつも助けてくれたのだ。」と解釈することもできます。世の中が病んでいるから、元気があったほうが良いという彼の理論（思考回路）は「世の中を幸せにしたい、だから何でもできるんだ。」と彼自身を奮い立たせる軸としてその言葉があったのではないかと感じました。

### 3. 考察

この言葉を使う人はどんな声で、どんな表情でしょうか？言葉を伝えるならば文字通り【元気】な、心身の活動の源となる表現で伝えると思います。元気でないときもあると思いますが、その言葉も習慣化させることで、自分の原点（今回でいえば【元気】）に戻ることができるのではないかと考えました。それは人（自分も含めた）に対して一種の勇気づけをし、【元気】を可視化できるバロメーターなのではないかなと思います。先生自身、勇気づけを意識していたかはわかりませんが、ファーストインプレッションで周囲へ与える明るさや勇気づけという点で教師をという仕事を考える言葉だと改めて感じました。

#### 参考文献

アントニオ猪木『元気があればなんでもできる』KKロングセラーズ、2008年  
中山康雄『言葉と心』勁草書房、2007年  
松永澄夫『言葉の力』東信堂、2005年